

直感

第 11 期 長澤 由美子

私が小野ゼミに出会ったのは、大学 2 年生の 1 月、商学部の第 3 回ゼミ説であった。私は、経済学部生で、それまで、経済学部のゼミしか見ていなかった。年明けすぐ、クラスの友人から、「第 3 回ゼミ説行かないと、商学部の入ゼミ試験受けられないんだって！」と言われた。その頃、経済学部のゼミの方が早く行われ、経済学部のゼミに落ちた人は商学部のゼミを受けるというなんともセコイことができた。びびりな私は、「あわよくば...！」という目的で、第 3 回ゼミ説に参加した。しかし、行ったはいいものの、情報に疎い私は、もちろん商学部のゼミを 1 つも知らなかった。ゼミ紹介の冊子をパラパラ見て、予習していると、あるゼミのページで目が留まった。そのページを見て、友人が「そのゼミめっちゃエグイらしいよ。入った人どんどんすっぴんになっていくんだって。」と教えてくれた。もちろん、小野ゼミのページもある。他のゼミが簡素なページである中、一際内容が詰まっっていて、目立っている小野ゼミのページに何か惹かれるものがあった。そんな感じで、冊子で多少勉強したものの、よくわからなかったので、友人にくっついて数ゼミの説明を聞いた。一通り説明も聞き、願書ももらったところで、そろそろ帰ろうということになり、日吉駅に向かっている途中、ふっと、さっき見た冊子の小野ゼミのページが脳裏をよぎった。友人に先に帰ってもらうように言って、小野ゼミのブースに 1 人で急いだ。対応してくれたのは、第 10 期石井さん・世名さんであった。第 3 回ゼミ説にして初めて登場した私に、当たり前だが、「小野ゼミは〜〜だから、ね？ 入りたくなくなっただしょう？」とネガキャンばかり。私は、「そんなことはありません。」と言い続けた。この時、小野ゼミの情報を何も知らない状態だったが、今思えば、小野ゼミにしよう決めていた。なぜかと言えば、このゼミに入ったほうが良いという「直感」が働いたからである。そんなこんなで、小野ゼミに出願し、ゼミ試での、大学院生菊盛さんからの「小野ゼミの何を知っているの？（怖い顔）」という質問もなんとかクリアし、晴れて小野ゼミに入会した。

それから、もう 2 年が過ぎた。私の拙い日本語ではこの 2 年間に言い表すことができないが、色んなことがあった。良いことも、悪いことも。就活や、ゼミ説でよく聞かれる「小野ゼミに入って、成長しましたか？」という質問には正直「わかりません。」という答えしか返せない。なぜなら、小野ゼミに入らなかった自分なんてわからないし、今はできていることが昔はできなかったかなんて覚えていないからである。でも、小野ゼミでの 2 年間で得たものは、これからの自分の糧になると思っている。その辺の 4 年生よりは、根性も強いメンタルも持ち合わせていると思うので、4 月からの社会人、どうにかなる(出世できる!?)と「直感」が働いている。2 年前の「直感」は大正解だったから、今回もきっと大正解である。その「直感」を信じて、4 月からも頑張ろう。